

薬は水以外で飲むと

★ **良くない組み合わせがあります**



グレープフルーツジュース

薬が効き過ぎて、副作用が出やすくなる場合があります

影響を受ける薬の例

- 降圧薬（ニフェジピン、アムロジピン、ジルチアゼムなど）
- 脂質異常症治療薬（シンバスタチン、アトルバスタチンなど）
- 免疫抑制薬（シクロスポリン、タクロリムスなど）
- 抗アレルギー薬（フェキソフェナジンなど） など



※薬を飲む時だけでなく、グレープフルーツは一日を通して避けることが大切です

牛乳・乳製品・カルシウム飲料

カルシウムが薬とくっつき、効き目が弱くなる場合があります

影響を受ける薬の例

- 抗菌薬（レボフロキサシン、ミノサイクリンなど）
- 骨粗鬆症治療薬（ビスホスホネート製剤など）
- 甲状腺の薬（レボチロキシンなど） など



※牛乳やカルシウム飲料と一緒に飲むのは避け、前後1～2時間あけましょう

お茶（緑茶・紅茶）

お茶に含まれる成分が薬とくっつき、効果が減る場合があります



影響を受ける薬の例

- 鉄剤（クエン酸第一鉄ナトリウムなど）

コーヒー

カフェインにより、副作用が出やすくなる場合があります



影響を受ける薬の例

- 気管拡張薬（テオフィリン製剤など）

アルコール（お酒）

相性の悪い薬があり、眠気・めまい・ふらつきが出たり、肝臓に負担がかかることがあります



影響を受ける薬の例

- 睡眠薬・抗不安薬（ゾルピデム、ブロチゾラムなど）
- 解熱鎮痛薬（アセトアミノフェン）
- 抗アレルギー薬・抗うつ薬 など

エナジードリンク

カフェインが多く含まれ、副作用が出やすくなる場合があります



影響を受ける薬の例

気管支拡張薬（テオフィリン製剤など）
鎮痛薬・抗うつ薬
一部の市販風邪薬（カフェインを含むものがあります）
など

※お茶やコーヒーでも同じです

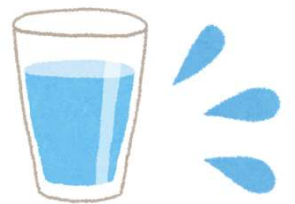
薬の種類や量、
体質によって
個人差が
あります



ぽかぽか

東京蒲田医療センター
公式キャラクター

薬は水で飲みましょう



薬剤師へも気軽にご相談ください

JCHO東京蒲田医療センター
〒144-0035

東京都大田区南蒲田2-19-2

TEL：03-3738-8221（代表）

FAX：03-5744-3280（地域連携室）



9月は「防災月間」です

もしもの災害に備えて
普段飲んでいる薬を
お薬手帳で確認しておきましょう

